

平成28年7月23日(土)

あしがさわ
芦ヶ沢 I・II 遺跡

現地説明会資料



今からおよそ 6,000 年前～5,500 年前の集落跡
(縄文時代前期前葉の竪穴住居跡)

所在地 : 久慈市長内町 17 地割内
事業名 : 三陸沿岸道路建設事業
委託者 : 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
発掘調査期間 : 平成28年4月6日～9月30日
調査対象面積 : 11,250 m²
調査担当者 : 菊池貴広 高橋義介 河村美佳

(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

1 遺跡の位置

久慈市長内町 17 地割に所在し、長内川と国道 45 号線と並行して流れる支流の間に形成された丘陵地緩斜面部が本遺跡となります。標高は約 75m です。

2 見つかった縄文時代の遺構

< 竪穴住居跡 >

縄文時代の住居は、地面を掘り下げ床面と壁を作り出し、柱穴（はしらあな）を掘り屋根をかけた、半地下式となる構造になっています。

調査区内の標高がやや高い所から 5 棟、中腹から 3 棟発見されました。それらは一辺 2.5 m ほどの小形の住居と、長辺約 12m、短辺約 7 m のとても大きな住居がありました。住居の床面は、地面を掘り下げた時に生じる凹凸を平らにするために土を貼った痕跡（貼り床）が確認されます。また、床面の中央付近に柱を持つものや、壁際に溝が巡るもの、火を焚いた痕跡などが見られます。

発見された住居跡の年代は、今から 5,400 年前の縄文時代前期中頃において、現在の十和田湖が爆発した際に降下した火山灰（※十和田中掬火山灰と呼ばれる）より古いことが分かりました。さらには、住居から見つかった土器（下に掲載した写真の土器など）は、アルファベットの「S」の字を連続して描いたように見える模様がほどこされています。この模様が描かれる土器は、縄文時代前期前半（今から 6,000～5,500 年前）に作られたものです。これらのことから、縄文時代前期前半頃に営まれた集落であると推定されます。



住居跡を覆う 5,400 年前の十和田湖起源の火山灰



S 字状の文様が施される土器

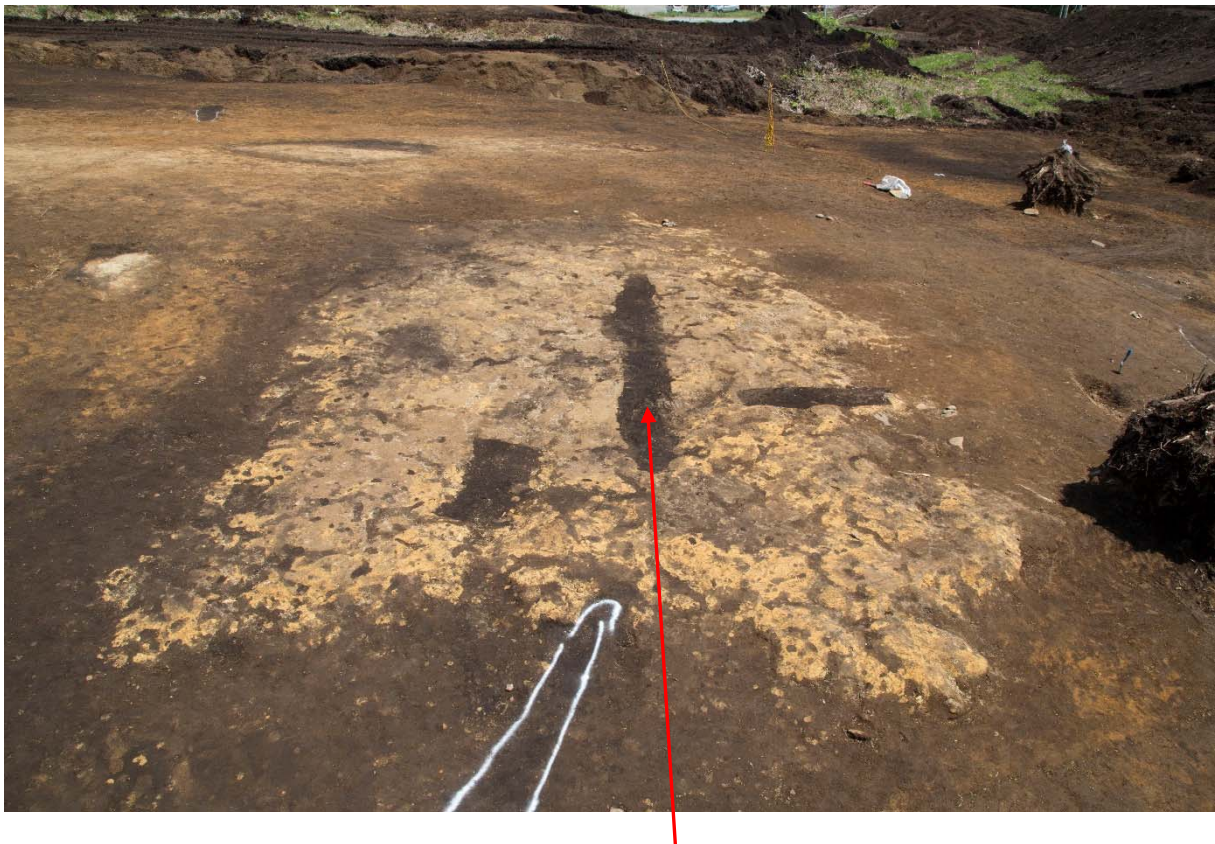


床面中央部に柱の穴がある住居跡

< 陥し穴状遺構 >

陥し穴状遺構が71基発見されました。平面の形が溝状で、大きさは長さ3～5m、深さ1～2mほどです。それらは緩やかな斜面を中心に見つかっており、長辺（長軸）が南北の方向あるいは北東－南西の方向を向くものが多く、平行に並ぶように掘られているものもあります。このことは、シカやイノシシなどの獣が水飲み場（水辺）へ向かう際に歩いた「獣道」に、獣の歩幅に合わせて配置されていることが考えられます。

陥し穴状遺構の作られた時期については、5,400年前に降った火山灰層を切って掘られているものや、火山灰が降る以前の竪穴住居跡を壊しているものなどが認められますので、縄文時代前期より新しい年代であることは確実です。ただ、土器などが見つからないので、それだけで詳しい年代は分かりません（年代を絞り込めません）。今後は、過去に見つかった県内の類例との比較や検討を行い、この遺跡で陥し穴状遺構の掘られた年代を解明できればと考えています。



住居跡に堆積した火山灰を切って構築された陥し穴状遺構

< 焼土遺構 >

「焼土遺構」と呼ばれる地面で火を焚いた痕跡が 18 基発見されました。それらは、地面を少し掘り窪めてから火が焚かれており、おそらくは、風で消えないように工夫されていると考えられます。何の目的で火を焚いたのか、獣の肉や魚などを焼いた痕跡である可能性もありますが、解明は今後の課題の一つです。



おわりに

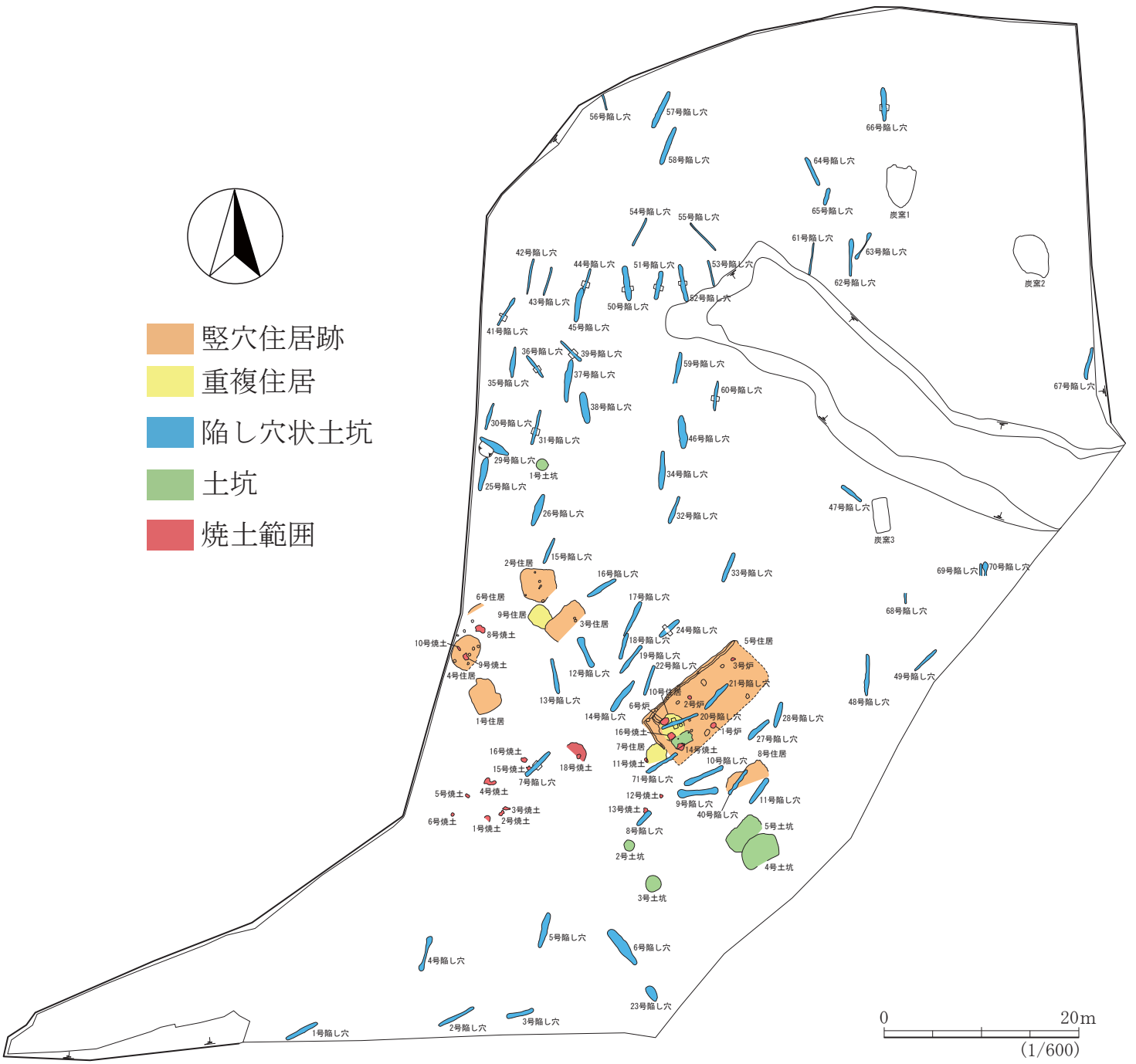
今回の調査成果としては、今からおよそ 6,000～5,500 年前の縄文時代前期には集落跡が営まれ、それ以降は狩猟場として変化した遺跡であることが分かりました。特に、縄文時代前期の大型の住居跡の発見は、久慈地域では類例が少なく、貴重な資料となりました。今後、調査した遺構と遺物を整理し、遺跡の特性を見だし、地域史解明の一助になればと考えています。

最後に、文末になりましたが、この発掘調査を進めるにあたり、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、久慈市教育委員会、岩手県教育委員会の諸機関ならびに、日頃の調査を温かく見守り支援していただいている地元の方々に厚く御礼申し上げます。

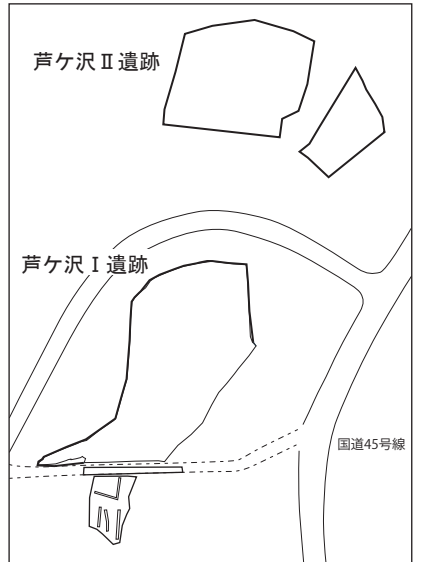
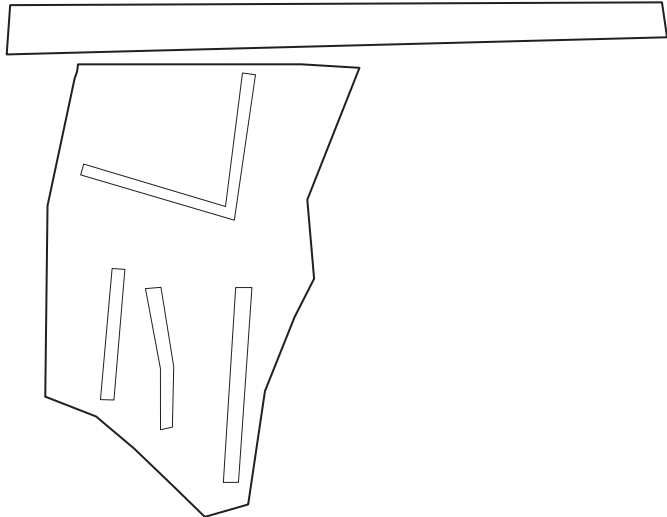


雨水の流入を防ぐための溝

住居跡を壊してつくられた陥し穴



- 竪穴住居跡
- 重複住居
- 陥し穴状土坑
- 土坑
- 焼土範囲



芦ヶ沢Ⅰ遺跡全体図

岩手県の遺跡略年表

年代	時期区分	遺物	主な事柄	主な調査遺跡	主な国・県指定遺跡
BC10000年 8000年 4000年 3000年 2000年 1000年	旧石器時代 縄文時代 中期 後期 晩期	石器・木器・骨角器 縄文 土器	大型動物が生息する	遠野市宮守町金取遺跡 西和賀町峠山牧場Ⅰ遺跡 西和賀町大渡Ⅱ遺跡 久慈市早坂平遺跡	
			気候が温暖になる 土器の使用が始まる	盛岡市大新町遺跡 軽米町馬場野Ⅱ遺跡 軽米町大日向Ⅱ遺跡	
			大規模なムラができる	住田町蛇王洞穴遺跡 二戸市馬立Ⅰ遺跡 山田町沢田Ⅰ遺跡 普代村力持遺跡	(県)大船渡市関谷洞窟 (国)遠野市綾織新田遺跡 (国)宮古市崎山貝塚
			漆の本格的な利用が始まる	盛岡市上八木田Ⅰ遺跡 紫波町西田遺跡 九戸村田代遺跡	(国)奥州市大清水上遺跡 (国)一戸町御所野遺跡 (国)北上市榊山遺跡
				盛岡市湯沢遺跡 北上市柳上遺跡 盛岡市蔭内遺跡	(国)盛岡市大館町遺跡 (国)大船渡市蛸ノ浦貝塚 (国)北上市八天遺跡
			亀ヶ岡文化が広がる	軽米町長倉Ⅰ遺跡 大船渡市上鷹生遺跡 北上市九年橋遺跡	(県)滝沢市湯舟沢環状列石 (県)田野畑村館石野Ⅰ遺跡 (県)一関市貝島貝塚 (国)大船渡市大洞貝塚
			稲作が始まり、金属器が使用される	大船渡市上甲子遺跡 一関市谷起島遺跡 滝沢市湯舟沢遺跡 奥州市常盤広町遺跡	
			卑弥呼が邪馬台国王となる		
			大和朝廷が国家統一を進める 古墳が各地につくられる	奥州市高山遺跡	(国)奥州市角塚古墳
			仏教が伝わる 聖徳太子が摂政となる 大化改新がおこる	奥州市中半入遺跡 北上市猫谷地遺跡 奥州市膳性遺跡 花巻市熊堂古墳 宮古市長根Ⅰ遺跡	(県)矢巾町藤沢蝦夷森古墳 (国)北上市江釣子古墳群 (県)岩手町浮島古墳群 (県)山田町房の沢古墳群(出土品)
奈良に都がつくられる					
京都に都がつくられる 胆沢城や志波城がつくられる 各地に荘園が広がる	盛岡市台太郎遺跡 盛岡市芋田Ⅱ遺跡 盛岡市細谷地遺跡 宮古市島田Ⅱ遺跡	(県)野田村野田堅穴住居跡群 (国)奥州市胆沢城跡 (国)盛岡市志波城跡 (国)矢巾町徳丹城跡			
前九年・後三年合戦がおこる	軽米町亘角子久保Ⅵ遺跡 二戸市飛鳥台地Ⅰ遺跡 一関市川崎の柵擬定地	(県)北上市新平遺跡 (国)金ヶ崎町島海柵跡 (国)奥州市衣川区長者ヶ原廃寺跡 (国)平泉町柳之御所遺跡・平泉遺跡群 (国)一関市骨寺村荘園遺跡			
平泉藤原氏滅亡する					
鎌倉幕府ができる	盛岡市繫Ⅲ遺跡				
文永・弘安の役おこる 室町幕府ができる 応仁の乱おこる	花巻市笹間館跡 紫波町柳田館跡				
秀吉全国統一する	遠野市篠館跡				
江戸幕府ができる 鎖国が始まる	奥州市北館跡 紫波町栗田Ⅲ遺跡	(国)二戸市九戸城跡 (国)盛岡市盛岡城跡 (国)北上市・金ヶ崎町南部領伊達領境塚			
開国が行われる	岩泉町江川鉄山跡 奥州市川岸場Ⅱ遺跡	(県)軽米町玉川鉄山跡			
明治維新	住田町子飼沢遺跡	(国)釜石市橋野高炉跡 (県)住田町栗木鉄山跡			
近・現代					

芦ヶ沢Ⅰ・Ⅱ遺跡

